

製品名: hnRNP DL ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12142**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:10000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	HNRPDL
別名	HNRPDL; JKTBP; Heterogeneous nuclear ribonucleoprotein D-like; hnRNP D-like; hnRNP DL; AU-rich element RNA-binding factor; JKT41-binding protein; Protein laAUF1
遺伝子 ID	9987.0
SwissProt ID	O14979
免疫原	抗血清はヒト HNRPDL 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 241-290

背景

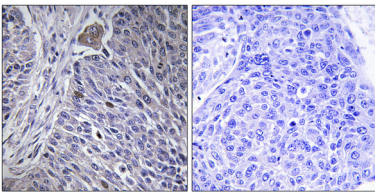
異種核リボ核タンパク質 D 様(HNRNPDL) Homo sapiens この遺伝子は、普遍的に発現する異種核リボ核タンパク質(hnRNP)のサブ

ファミリーに属します。hnRNP は RNA 結合タンパク質であり、異種核 RNA (hnRNA) と複合体を形成します。これらのタンパク質は核内の pre-mRNA と関連しており、pre-mRNA のプロセッシングや mRNA 代謝および輸送のその他の側面に影響を及ぼすと考えられます。すべての hnRNP が核内に存在しますが、一部は核と細胞質の間を往復しているようです。hnRNP タンパク質はそれぞれ異なる核酸結合特性を持っています。この遺伝子によってコードされるタンパク質には、RNA に結合する 2 つの RRM ドメインがあります。この遺伝子には、選択的スプライシングを受けた転写バリエントが 3 つ記載されています。転写がナンセンス変異による mRNA 分解の候補であるため、バリエントの 1 つはおそらく翻訳されません。この遺伝子によってコードされるタンパク質アイソフォームは、そのファミリーメンバーの機能と類似しています。転写制御因子として機能します。転写抑制を促進します。分化した筋管における転写活性化を促進します (類似性による)。二本鎖および一本鎖 DNA 配列に結合します。COX5B プロモーターの転写抑制 CATR 配列に結合します (類似性による)。多くのプロトオンコゲンおよびサイトカイン mRNA の 3'-UTR 内にある AU リッチエレメント (ARE) を含む RNA 分子に高い親和性で結合します。核および細胞質ポリ (A) mRNA の両方に結合します。ポリ (G) およびポリ (A) には結合しますが、ポリ (U) またはポリ (C) RNA ホモポリマーには結合しません。5'-ACUAGC-3' RNA コンセンサス配列に結合する。誘導: マクロファージでは 12-O-テトラデカノイルホルモール 13-アセテート (TPA) によって、顆粒球ではレチノイン酸 (RA) によって (タンパク質レベルで) アップレギュレーションされる。インターロイキン-4 (IL-4) によってダウンレギュレーションされる。PTM: Arg-408 のジメチル化は、おそらく非対称型である。類似性: 2 つの RRM (RNA 認識モチーフ) ドメインを含む。細胞内局在: TNPO1 依存的に核と細胞質の間を往復する。サブユニット: ZNF148 と相互作用する (類似性による)。TNPO1 と相互作用する。組織特異性: 心臓、脳、胎盤、肺、肝臓、骨格筋、腎臓、膵臓、脾臓、胸腺、前立腺、精巣、卵巣、小腸、結腸、白血球に発現する。骨髄性白血病、胃腺癌、子宮頸癌、肝細胞癌、線維肉腫、結腸腺癌、類表皮癌、骨肉腫、膀胱癌細胞に発現する。、

研究分野

-

画像データ



HNRPDL 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肺癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。